ＬＣＣ・同志社大学リエゾンオフィス共同研究会

ＬＣＣ運営委員会・法人担当
北出至、小林明夫、宮崎真年

同志社大学リエゾンオフィス
一井啓良・コーディネーター

平成２４年９月７日午後３時
於：ガーデンシティクラブ大阪

新たなイノベーションの創出を目指して

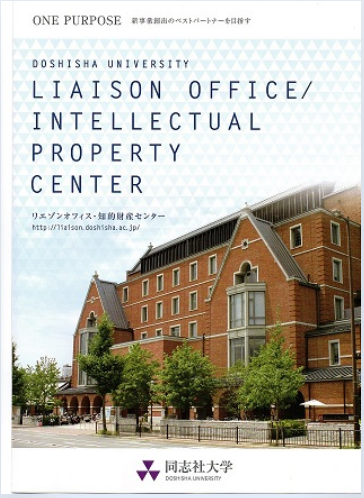
上記見出しはリエゾンオフィス・知的財産センター橋本雅文所長の言葉です。同志社大学は「地域社会とともに歩む大学」としてリエゾンオフィスを設置し、産業界、行政と共に産官学連携に取り組んでいます。

一方、同志社校友会大阪支部産官学部会（ＬＣＣ）は第七期に入っていますが、今までの活動に加え、新たにリエゾンオフィス・知的財産センターが推進する産官学連携、特に「人文社会系産官学連携」を中心に“企業と大学の橋渡し役”ができればと考えます。

早速、平成２４年９月７日の 第一回研究会に於いてＬＣＣ法人担当者達が、リエゾンオフィスの一井コーディネーターの事例を交えた説明を熱心に聴きました。

ＬＣＣ・リエゾンオフィス共同研究会は、原則的に毎月第２金曜日午後３時より、ガーデンシティクラブ大阪に於いて行います。但し、第二回の研究会は例外として、１０月１２日(金)午後３時より、同志社大学京田辺キャンパスのローム記念館の２階で行います。

右側記載の「契約スキーム」は、ＬＣＣ法人担当が関与するもではなく、流れを知る上での「参考まで」です。企業への最初のアプローチについて、一井コーディネーターは、「企業が抱えるテーマに関し、先ず大学教授の講演から始めることです。問題解決の選択肢の一つとして学術的な見地から検証してみる、また、ケースによれば、大学生を使った市場調査が有効な手段となり得ます」などと分かり易く話されました。　　（法人担当リーダー　北出　至）



企業と大学の契約スキーム

１．学術指導

専門的知見に基づき、調査・技術開発についてのアドバイス。

２．受託研究

企業から委託託依頼を受けたテーマについて、大学独自で研究・調査。

３．共同研究

受け入れたテーマについて研究者の受入・派遣を伴う共同研究・調査。

４．奨学寄附金

学術研究の奨励を目的とした寄附金であり、研究成果は社会に還元。